

み

ん

な

文

芸

# 中田國太郎選

投稿数15首

# 引間豊作選

投稿数21句

**散る桜七つ釦は忘れられ**

(評)「貴様と俺とは同期の桜、離れ離れに散ろうとも、花の都の靖国神社、春の梢に咲いて会おう」と、口ずさみつつ、大東亜戦争末期に日本の為にと信じ、散つていった幾多の海軍航空隊。予科練習生の制度は七つ釦は桜に錨のマークで、当時は若者の憧れ的であり、銃後を護っていた人達よりは軍人のなかでも敬愛されていた。既に戦後も六十年以上を経て、年若くして國に殉じた戦友のことも幻の如く消え去り、その名は忘れられ生き残った一握りの搭乗員もその自負を語ることなく、やがての春に仲間と会うか。

道草というたのしみを蝶もして

下田野 中田 久恵

皆野 大沼シヅ子

雨の日の客にほめらる白牡丹

三沢 新井 民子

皆野 沢野 恒平

渓谷に錦をそえし岩つじ

下日野沢 田端 マサ

皆野 関口 さち

つばくらめ声をあいづに影ひそめ

金崎 設楽 武子

下日野沢 浅見 好一

満開の桜の古木抱きにけり

皆野 桜井 早苗

三沢 真下 杏子

花びらを吹き上げて去ぬ風のみち

下日野沢 引間富美子

三沢 新井 叶子

跡取りの婚の近づく松の芯

皆野 桜井 早苗

路の葉に腰を下ろして缶茶かな

訪ねたる父玉碎のレイテ島慰靈碑もなく悲涙にむせぶ

(評)レイテ島は、フィリピンの中部にあり、太平洋戦争末期に日米の激戦地となつた島である。その激戦において

作者の父も玉碎されたという。その父の靈を弔うために訪れたレイテ島には「慰靈碑もなく」厳しい非情な現実に遭遇し、ただ悲しみの涙にむせぶだけだった。故里を思い、家族に向かつて空しく叫びながら散つて行つた兵士達を偲ぶ慟哭の詩である。戦争の悲劇である。逢田一郎の歌「等兵逢田茂二郎いづこなりや戦敗れて行方しらず」も新井作「見守る」に家族の深い愛情がこもる。浅見作「命の温もり」に小さき者えいとしさが溢れる。

障害の身で念願の職につく無事の務めを家族見守る

六人目の曾孫の誕生日祝ひつつ抱けば伝はる命の温もり

宝登宮の祭日生れと自慢する米寿の兄へ贈る花束

四十年タイムスリップ教え子の同窓会に笑いと涙

初節句の鎧兜は凜として曾孫の生い立ち導くごとし

根気よき木つつきの音を聴き乍ら厨仕事の摺る朝

地下鉄を出ればビル風よろめきてジャンプの如く傾き歩みぬ

新緑のまぶしき季よ幾度の夏に向き合ふ夫なき今も

掘られるい筈ぎゆつと音のして生きし証と水ほとばせる

さざぎ一羽まぼろしめきて夕暮の利根の岸辺に佇みており

新緑の萌ゆる林に紫がここに藤よとしだれ咲きおり

陽に映える立夏にゆれるふじ花を窓に見惚れて友と楽しむ

下田野 上日野沢 皆野 金崎 三沢 新井 四方田 利男 下田野 安井 光代 山本ミチノ

皆野 新井 茂

茂

みす

稀ちゃん

き

## 俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して  
総務課へお寄せください。  
8日必着  
1人1句、1首に限ります。

## 1歳のお誕生日おめでとう

1歳になる  
赤ちゃんを  
募集しています



ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに総務課窓口(写真をご持参ください)または、町ホームページからお申し込みください。

問合せ 総務課企画政策担当  
☎62-1230 内線204



金崎区  
田島 丈士さん  
優子さん

やんちゃでわんぱくだけど、  
明るく元気に育ってね☆



腰区  
柴崎 直也さん  
恵美さん  
☆いつもニコニコ顔の  
みっちゃん♪  
元気で優しい子に育ってね☆